

久留米

通高 信専

第68号

[DECEMBER 22, 2011]

久留米工業高等専門学校企画主事室
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>



久留米工業高等専門学校
校長 上田 孝

頭の良くなる生活習慣

人間は何故眠るのか、就寝中は意識が無いのにどうして朝になると目覚めるのかなど、ヒトの脳については未知の部分が多いですが、近年の脳科学の進展により、そのメカニズムは徐々に明らかにされています。・

夜暗くなると脳からメラトニンが分泌されて眠くなって睡眠に入り、明け方になると覚醒作用をもつ脳内のノルアドレナリン神経が活発になり、意識がある状態を維持する大脳皮質を刺激することによって、脳の活動が復活して目覚めると考えられています。・

覚醒前の明け方近くには、代謝や免疫、炎症の抑制等に関係してストレスから身を守る働きをするコルチゾールや、コルチゾールの量を制御する副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）、更には精神を安定し、不安を抑え、食欲や自律神経を活発にするセロトニンなどの人間の活動に必要なホルモンが、大量に分泌されることも明らかになっています。・

ここで重要なことは、実際に起床する時刻に関わらず、毎朝5時～7時頃にこれらの脳内物質の分泌がピークになるということです。このタイミングに合わせて起床すれば、ホルモンの分泌量も増え、日中の活動や心身の健康度が高まります。・

また、人間の体内にある生体時計は25時間を周期としているため、1日24時間周期の実生活との調整をする必要があるわけですが、脳内の視交叉上核が、毎朝太陽の光を視覚で認識することにより、生体リズムを1日24時間に調整（生体時計のリセット）しています。海外旅行の時差ボケ解消には、到着国の朝の時間に起きて日光を浴びると良いことは広く知られています。・

脳の主なエネルギー源はグリコーゲンで、肝臓中に半日分だけ蓄えられています。脳は就寝中もエネルギーを消費して

おり、起床時にはエネルギー源となるブドウ糖が不足状態になっています。脳が働くためには、朝食で炭水化物を摂って脳のエネルギー補給をすることが重要です。空間や単語の想起時間が同一の被験者で朝食の摂取によって有意に短くなるという実験結果もあり、朝食を抜いて食事回数を減らすと、肝臓で中性脂肪等の合成が進み、血中コレステロール濃度や中性脂肪が高くなり、肥満や高脂血症等の原因にもなります。・

生活リズムを整えることで、体調はもとより脳の働きも良くなってきます。寝つきが悪い人は無理に早寝をしなくても毎朝同じ時間に早起きすれば、体が疲れて自然と眠れるようになってきます。寝る直前は、体を疲れさせようとして激しい運動をすると交感神経を興奮させてしまうので、リラックス効果のあるストレッチ程度が良いとされています。空腹で眠れない時は、温かい牛乳が胃に負担をかけず、牛乳に含まれるアミノ酸のトリプトファンはセロトニンを作る材料となるので気分を落ち着かせる作用もあります。・

早寝、早起き、朝ごはん。「小学生じゃあるまいし、今さら…」と言う前に試しに実行してみても？百マス計算で知られる陰山英男先生を始め多くの有識者がその効果を説いています。もちろん、頭を良くするためには、勉強もしないとダメなことは言うまでもありませんが。

高専祭を終えて

高専祭実行委員長 制御情報工学科 4年
大石 萌絵

今年で46回目となる高専祭も、皆様のご協力のお陰もあり、無事に終わることができました。今年のテーマは、「世界に従うか？自分に従うか？～あの日見た祭の名前を僕たちはまだ知らない～」でした。皆さんは高専祭という一大行事の中で、自分が従いたいものを見つけられたでしょうか。今年の高専祭が、皆さんの高専生活の思い出の一つとして記憶の片隅にでも残るものになれば私は大変嬉しく思います。

2日の前夜祭では、昼には高専健児による神輿行列が行われ、夜には大花火が打ち上げられました。途中生憎の雨でステージ進行を一時中断する場面もありましたが、PAさんや出演バンドの方々の協力もあり全てのプログラムを野外ステージで行うことができました。

3日の文化祭は天気に恵まれ、例年を大きく上回る来場者数を記録しました。メインストリートは多くの人で賑わい、毎年恒例の女装コンテストを始めとするステージイベントやバンド演奏に、会場は大いに盛り上がりました。

実行委員会に所属して4年目で委員長になり、私は本当に多くのものを得ることができました。全ての活動を終えた今、歴代の先輩方への尊敬の念が深まると同時に次の高専祭を作ってくれる後輩たちへの期待で胸が膨らみます。彼らたちなら来年また素晴らしい高専祭を作ってくれると信じていますので、皆さんも来年の高専祭に積極的に参加して頂けたら幸いです。

最後に、学生の皆様、協力していただいた教職員の皆様、地域住民の皆様、ご来場していただいた皆様、そして実行委員会の皆さんに、心より厚く御礼申し上げます。



雨の中の体育祭

体育祭実行委員長 電気電子工学科 5年
中島 蓮

今年の体育祭は題名の通り、雨の中で行われました。中止だけは避けたかったので、早朝から雨は降っていましたが、どうにかグラウンドは使えるという状況だったので急遽プログラムを短縮し、午前中で体育祭を終わるという条件の元、予定通り11月5日に体育祭を開催しました。

今年の体育祭は「魂×魂」というテーマでした。このテーマの意味は、まるで魂と魂がぶつかり合うかのように、学生達に体育祭を楽しんでもらいたいという我々実行委員の想いを表したものです。雨の影響で競技はあまり行えませんでした、応援合戦ではこのテーマの様に各学科とても気迫のある演武を披露してくれました。そして恒例の殺陣では小芝居やダンスを披露してくれたことでとても盛り上がり、学生はもちろん来賓の方々も楽しんで頂けたのではないかと思います。

また、ある学科は「がんばろう日本」をテーマに看板の製作や演武を行っていたようで、ここ久留米高専の学生達の元気や力強さ、そしてこのメッセージが3月に起きた東日本大震災で被災された方達に、届けばいいなと思っております。

私は体育祭実行委員を務めてもう三年目になりました。この文章を書くのも三度目です。三年もの期間体育祭と密接してきて感じた事があります。それは年々学生達の体育祭に対する意識が強まってきているという事です。参加人数も増えているようですし、学生達の呼び掛けもあってか来賓の方々も多く見られるようになりました。私達実行委員にとって参加者が増えることはとても嬉しいことです。また参加人数を増やすことは課題でもあり、これから先もより多くの人が体育祭に参加してくれるよう目指していきたいと思います。きっと来年の体育祭も盛り上がることでしょう。

最後に、体育祭を開催するにあたって協力して下さった教職員の方々、保護者の皆様、地域住民の皆様、そして学生の皆様に深く感謝致します。体育祭実行委員のみなさん、お疲れ様でした。



工場見学旅行

待ち焦がれた5日間

機械工学科4年 梶原 拓郎

前期期末テストを終えほっとすると同時に、高専生活の一大イベントである工場見学旅行に多くの期待に胸を膨らませ、秋休みを迎えた。

私たち4年機械は、9月26日～30日の日程で名古屋、草津、京都、大阪を回り、トヨタ自動車、三菱重工名古屋、協和発酵ケミカル、三菱重工栗東の計4社を訪問してきた。

見学先では、着なれない真新しいスーツを身に纏い、見学先で活躍する社員の方々と将来の自分を照らし合わせていた。自動車が出来上がる工程や最新鋭のロケット、大きなマザーマシンのなどに私は少年のように目を輝かせていた。また、組立ラインを見学し、教室で学んだ知識が実際のもので作りの現場でどう生きてくるのか分かったような気がしたし、今までの勉強が役に立つところを見て嬉しく思った。

協和発酵ケミカルでは、化学工業の分野での機械工学の活躍をすることができ視野が広がったと思う。場内にパイプが張り巡らされた工場は、それまで見てきた工場とは雰囲気が全く違い自分たちの活躍するフィールドの広さを思い知らされた。

私たちの1番の楽しみと言えば、4日目の自主研修。日頃、同じ教室で過ごす仲間たちと大阪の街をiphone片手に歩き回り、会話も大いに弾んだ。ホテルに戻ってからも3年半の積み重ねた思い出話は尽きることなく盛り上がり仲間との絆をよりいっそう深めることができた。

3年半待ち焦がれた5日間はあっという間に過ぎ、多くの思い出と疲れを残して帰ってきた。

この5日間でものづくりの最前線を目の前にし、感動するとともにこれからの勉強への意欲が湧きたてられた。そして、クラスの絆を深め、一生の宝になる思い出を作ることができた。後輩達には、私たち以上に良い発見ができ、濃い工場見学になればよいと願う。

この貴重な時間がこの先何十年もある人生の中で役に立つように、残りの学生生活を存分に楽しみ、勉学に勤しみたいと思う。

工場見学旅行に参加して

電気電子工学科4年 古川 真杉

電気電子工学科4年生は、9月26日から9月30日まで中部・関西地区において市内観光や博物館の見学をはさみつつ工場見学を行いました。

まず、ヤマザキマザック美濃加茂製作所では、工作機械、特にNC旋盤の組み立て現場を見学させていただきました。工場敷地内ではヤマザキマザック社の新しい型から古い型までの製品の組み立てや製品の修理を行う場所や製品に使われている部品の作成を行う場所、さらには、新人の研修を行うための工作道場など、約1時間30分かけて見学させていただきましたが、全ての物を見ることができないほどとても広い敷地でした。組み立て中の製品はライン作業ではなく一台一台に担当者があり責任を持って組み立てを行っているとのことでした。各製品の前には製品の納期と出荷先が書かれた紙が張られており、出荷先には国内はもちろん、アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパの国々など世界の各国が名を連ねておりました。世界とのつながりを感じ、職場は世界中にあるということを実感しました。

次に、NTT西日本大阪支店では、大阪市内の加入者につながる交換機やモデムがずらっと並ぶ部屋（交換機室）や停電が発生した時に電力を供給する設備（蓄電、発電室）を見学させていただきました。また、大阪市内の加入者に配線を張り巡らせるための地下にあるとても長い洞道（とうどう）も見学させていただきました。洞道は許可がないと入れないところだそうで扉の開閉も厳重に監視されていました。この洞道を見学する際に私と他数名は、ちょっとした手違いにより見学を進める集団からはぐれてしまい、一時はどうなることかと思いましたが、最終的には無事に見学を終えることができました。たくさんの機器とその保守管理は、利用者側には見えませんが、生活を支えるサービスの維持には欠かせない仕事であることを実感しました。

この工場見学旅行で見学させていただいた会社で働く人の姿は将来の自分の姿の一つではなかろうかと直に思いました。その点で今回の工場見学旅行は就職に関するイメージを広げるための良い機会であったと思います。また、普段はあまりかわることのない中部・関西地区の食べ物や文化にも接することができてとても良かったです。



工場見学旅行

工場見学旅行を終えて

制御情報工学科 4 年 石井 朝花

我々制御情報工学科は、9月26日～30日の5日間、愛知、京都、大阪へ工場見学旅行に行きました。着慣れないスーツを着た私達は福岡空港に集合した時から、見慣れないスーツ姿の友人達と合流して早速集合写真を撮るなど、すっかり旅行気分でした。

飛行機に乗り、バスで味噌カツ弁当を食べながら、最初の見学先へ向かいました。一日目はヤマザキマザック美濃加茂製作所で工場内を見学、質疑応答の時間は大変意義のあるものとなりました。二日目はトヨタ自動車元町工場、トヨタテクノミュージアムを見学、昼食にひつまぶしを食べた後は京都に向かい、清水寺、その周辺の通りを散策しました。三日目は人と未来防災センターを見学、地震の恐ろしさなどを学びました。神戸の中華街で中華料理を頂き、その後関西電力南港発電所内をバス内で見学、敷地内の体験ゾーンでミニゲームなど楽しみました。大阪、新世界へ向かい、通天閣に上って遠景を望み、串かつを堪能しました。

四日目は自主研修と称して丸一日、皆思い思いの場所で楽しい時間を過ごしました。私は、ユニバーサルスタジオジャパンで友人達とアトラクションに乗ったり、パレードを見学したりして、一日中遊びまわりました。最終日は大阪科学技術館で非破壊検査についてのお話を聞いたり、館内の体験スペースで楽しみながら学んだりしました。昼食を食べて大阪城内を見学、武将の鎧兜に見を包んで写真を撮る友人もいました。

震災の影響で急遽行き先を変更するなど、不安だった面もありましたが、この旅行で様々な産業技術を学んだりはもちろん、交流の少なかったクラスメイトと仲良くなったりなど、クラスで過ごしたこの5日間は、とても思い出に残る旅行になりました。この旅行で得たものを我々は様々なことにつなげて、よりよい技術者になるべく日々精進していこうと思います。

工場見学旅行を終えて

生物応用化学科 4 年 白石 祐太郎

9月26日、前期期末試験から解放された私達生物応用化学科は、高専生活最大のイベントのひとつである工場見学旅行（関西エリア）へ出発しました。今回見学させていただいたのは、江崎グリコ株式会社（グリコピア神戸）、住友精化株式会社、キッコーマン株式会社、サントリーホールディングス株式会社（サントリー山崎蒸留所）です。普段見ることができない工場の内部を見学することができ、非常に新鮮でした。工場見学に加えて、中華街やおおさか海遊館、USJ等の楽しむ要素があり、濃厚な5日間となりました。

グリコピアでは、プリッツとポッキーの原料の混合・成型から、仕上げ・包装までの製造工程を見ました。その中でも、ポッキーの長さをそろえるのにただ切るのではなく、少し切り込みを入れて自重で折るというところが印象的でした。化学材料を生産している住友精化では、吸水性ポリマー製造ライン見学に加えて、久留米高専の卒業生の方々に吸水性の実験も見せていただき、「働くこと」がどのようなことなのかについて懇談会を持つことができ、就職について考える貴重な時間を持つことができました。キッコーマン高砂工場では、醤油の製造工程を見学し、お土産の醤油をもらいました。食品工場だけあって衛生管理に非常に気を使っていたのが印象に残りました。サントリー山崎蒸留所ではウイスキーの製造工程を見学し、発酵プロセスの詳細を実見できました。ここでも、久留米高専の卒業生の方に職場についての紹介していただき、高専から就職するときのポイントなどの質問に丁寧に答をいただきました。

私はどの工場にも共通して、工場内には知恵が詰まっていると感じました。それは、製品の生産効率の向上や環境汚染を防止するための工夫であり、こういった事に自分達が今勉強している内容が生きてくるのだと強く実感しました。

今回の旅行で、それぞれ自分の将来を考える上で非常に貴重な時間を持つことができました。最後になりましたが、見学させていただいた工場の方々や先生方、そして旅行会社の方に感謝してベンを置きたいと思います。ありがとうございました。



工場見学旅行 工場見学旅行を終えて

材料工学科 4 年 飯盛 海

前期期末試験終了後の9月26日から30日までの5日間、私達は工場見学旅行のため関西地方に赴きました。皆この旅行を心待ちにしていたようで、期待を抱いて博多駅から新幹線に搭乗し、福岡を後にしました。

1日目は、「SPring-8」で放射光をつくりだす蓄積リングの一部とその概観を見学させていただきました。施設の規模が非常に大規模なものであることに驚きました。ここでの見学は最先端技術を知るための良い機会となりました。

2日目は、企業を2社見学させていただきました。初めの1社は「新日本製鐵広畑製鐵所」で熱延工程を見学しました。スラブが灼熱しオレンジ色を呈しており、10メートル程度離れた場所から見学しました。それでもスラブから発せられる熱が伝わってきました。また、圧延工程での耳を塞ぎたいような大きな音に私たちは圧倒されました。このような圧延工程については授業で学習していたものの、実際に見聞することで理解がより深まりました。もう1社は「福田金属箔粉工業」の工場見学でした。ここでは、金属の製造工程をいくつか見学させていただきました。

3日目は、「京セラ」本社の一室にて京セラについて企業説明をしていただきました。京セラは「敬天愛人」という社是を掲げ、不況でも従業員を解雇せずに巧みに経営していくという経営姿勢に一流企業である所以を感じました。説明後は京セラの歴史や製品の展示物を見学し、絵画・陶器等の美術品も鑑賞しました。

4日目は、自主研修でした。各人思い思いに満喫した1日を過ごせたようです。

5日目は、「大阪造幣局」を見学させていただきました。硬貨を多量に敷き詰めた袋を持ち上げる機会がありましたが相当な重量でした。

これらの工場見学の他に、姫路城、大阪城、金閣寺、清水寺などの歴史見学もしました。それらの建築物は堂々と存在する様から、重要文化財としての風格が静かに伝わってきました。

私達は今回の工場見学旅行を通じて多くのことを学び、体感しました。今回の工場見学旅行で経験したことは、これからの人生の糧になることでしょう。私個人としては、大変貴重な思い出となりました。



国際交流

第4回テマセク・ポリテクニク学生交流

企画主事補 金城 博之

去る10月8日、シンガポールのテマセク・ポリテクニクから学生44名引率2名の計46名の訪問団が本校に訪れました。テマセク・ポリテクニクは、シンガポール国土の東側に位置する学校で、航空工学やバイオ関連などのエンジニア養成にとどまらず、デザイン・ビジネス・コミュニケーション学や獣医学など多岐にわたる専攻分野を有す、学生数15,000人を誇る本校とは規模が格段に異なる学校です。

今年で第4回目を数えたこの国際交流の取り組みは、本校教育理念である「広い視野と豊かな心を兼ね備えた技術者」の育成を達成するため、異なる文化を持つ同世代の学生との交流を通し、多様な文化や価値観への興味・関心を高める機会を設けることを目的として実施しています。

今年は昨年までの教員引率の学校見学・英語科目体験授業および昼食会ではなく、学生主体のキャンパスツアーとティーパーティーでの交流会を催しました。キャンパスツアーでは、両校学生をそれぞれ8つの班に分け、班長を中心に見学場所を自由に決めさせました。テマセク側の所属学科が多岐にわたるため、専門性の高い実験室よりも本校学生に馴染みのある場所を説明してもらおうとこのような形態にしました。お茶会は例年の昼食会では、昨年のアンケートの「食事をしながらの交流は意外に難しい」という声を活かしたものです。和風の図柄が描かれた容器に入った福岡ゆかりの和菓子を、学生たちは苦心しながらも説明していました。また両校学生が各自で用意したお土産交換を行っています。百円均一でも手に入れることができるようなものを用意するように指示していますが、製品をわかりやすく説明することは就職してから必要になるコミュニケーション技術の一つだと言えます。

グローバル競争により企業が学生に対して求める能力は、特にコミュニケーション能力に関して高まっているように感じます。英語力の高い学生には班長として自分の交流ではなく、周りに気を配ることを求めました。その他の学生には説明というスキルを通して、より実践に近い状況を設定しています。何よりも、これらの教育的な目的を背景とした活動を通して、学生は異なる文化の同年代の学生とふれあい、視野を広げていくことができ、高校の指導要領に謳われているような積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の陶冶に役立つものと思われます。英語が多少できなくとも、英語のできる班長がいるので実際何とかなりまし、多少苦労しても楽しく有意義な企画です。あなたも、来年こそは参加してみませんか。



国際交流

タイ王国高校生訪問団来校

企画主事補 金城 博之

みなさんは、タイで日本語を学ぶ学生が急増していることをご存知ですか？日本企業7000社が進出するタイでは、90もの大学で日本語教育が行われ、高校でも文系だけであった日本語の第二外国語履修を理系にまで広げ、日本語を選択する学生数が激増しています。そんな中、本校ではタイからの高校生が訪れ、交流会で互いの親交を深め有意義な時間を過ごすことができました。

この取り組みは例年新入生研修でもお世話になっている、国立夜須高原青少年自然の家主催のタイ王国高校生招聘交流事業の一環として、去る10月26日に行われたものです。「日本に対する理解の増進」と「日本の青少年の国際的視野を醸成」することで、「東アジアの中核を担う次世代リーダーを養成する」ことを目的としています。タイ側からは第2外国語として日本語を学習している高校生のの中から選抜された25名と引率者3名の計28名が本校を訪問しました。

折しもタイ北部での洪水が、南部および人口の集中するバンコクに迫る中、引率教員及び生徒たちは明るく振舞っていたのが印象的でした。しかしいったん話がそのことに及ぶと、やはり大変心配そうな表情でした。あまり人に心配をさせない大変明るかった私の留学中のタイ出身学生を思い出し、国民性を見たような気がしました。

タイ側が高校2年生であったため、本校も2年生から希望者を募ったところ、予定の35人を上回る40人が参加することになりました。その他に学校紹介を依頼した学生会から5名、留学生が10名参加しました。昼食会では初めは打ち解けることが難しかったのですが、次第に交流を深めることができました。来年度の開催は未定ですが、大変有意義な時間を過ごすことができました。



国際交流を通して

寮長 田崎 大剛

僕たちは、11月19・20日に韓国の東亜マイスター高校と本校の通学生、及び北九州工業高等専門学校とで学生国際交流行事を行いました。

19日は、各学校の学校紹介とドミノを行いました。はじめは言葉の壁があり、なかなかお互いの気持ちを伝えることができなかったようですが、通訳の方のおかげで自分の意思を相手に伝えることができたようです。ドミノを倒す頃には、通訳の方なしで、片言の英語や日本語、韓国語を使ったり互いにジェスチャーをしたりして自分の意思を相手に伝えていました。夜は立食パーティーを行い、さらに交流を深めることができました。

20日は、東亜マイスター高校と久留米高専だけで行いました。この日は、僕たち寮生会役員が考えた4つイベントを行いました。そのイベントは、もちつき・折り紙(折り鶴・ミウラ折り)・大縄跳びの4つです。もちつきは韓国であまりしないようで、皆で楽しみながらついていました。折り紙では、韓国の学生は特に苦戦していたようで、同じ班の高専生が韓国の学生に折り方を教えていました。折り鶴は最後にパネルにして、両国で交換しました。大縄跳びでは、韓国の学生と高専生が一丸となってより多く跳べるように頑張りました。

いつもは寮生だけで行う寮祭が、こんなに大きな国際交流行事になるとは思ってもいませんでした。その分、準備も大変で嫌になることもありました。しかし、終わってみるとすごく楽しかったし、いい経験にもなりました。また、コミュニケーションをとることの大切さや難しさを改めて実感できました。

今後も、このような国際交流を続けていけたらいいと思います。



アジア太平洋情報オリンピック

制御情報工学科 3年 坂田 祐将

アジア太平洋情報オリンピックという大会がありました。この大会は、主催者側が作成した数学的な問題(3つ)が全世界同時にネットに上げられるので、アジア太平洋地域の国の高校生プログラマ達が5時間でその問題の答えを導き出すプログラムを作り、より良いプログラムを作った人から順位がつくというものです。僕は30位で銅メダルをもらう事ができました。3位ではないです。

僕がこういった大会に出て気づいたことは、高専の外にも凄い人が沢山いるなぁということでした。恐ろしくプログラミング出来る人や、驚くほど面白いことをやっている人たちがいます。

こういう人たちの中に、ただプログラミングが出来るだけの高専生が飛び込んでも、まったくもって勝てません。彼らは本当に凄い人達です。パワフルさが違います。彼らと対等に渡り合うには、何か他に武器になるようなものが必要だと感じました。

高専生には沢山時間があります。あと選択肢も沢山あります。色々素晴らしい環境が整っています。もし、あなたに残された時間があるのなら、やりたいことを思いっきりやって「これだけは負ける気がしない」と言えるものを身につけると凄く良いはず。



ベストパイロット賞を受賞して

翔同好会部長

機械工学科 4年 池尻 仁

10月21日(金)から10月22日(土)にかけて、第7回全日本学生室内飛行ロボットコンテストが行われました。これは、室内で遠隔操縦可能な航空機(平たく言えば飛行機のラジコン)を設計、製作し、飛行を競うというもので、私たち、翔同好会も「ひよっこ3世」という機体を設計、製作して大会に臨みました。

結果として、総合的な順位は全50チーム中14位でしたが、順位とは別にある、ベストプレゼンテーション賞、ベストデザイン賞、ユニークデザイン賞、ベストクラフト賞、ベストパイロット賞という5つの賞のうち最も安定した飛行をした機体に授与されるベストパイロット賞を受賞しました。

このベストパイロット賞の受賞はあまりに予想外のことで、今でも夢なのではないかと思うときがあります。しかし、部活に入ってから4年間、打ち込んできたことや、今回の大会に出場するにあたって支えてくれた多くの方がいたからこそ、このような素晴らしい賞をいただくことを、現実のものとするのが出来たのだと改めて実感することが出来たと思います。

英語弁論大会を終えて

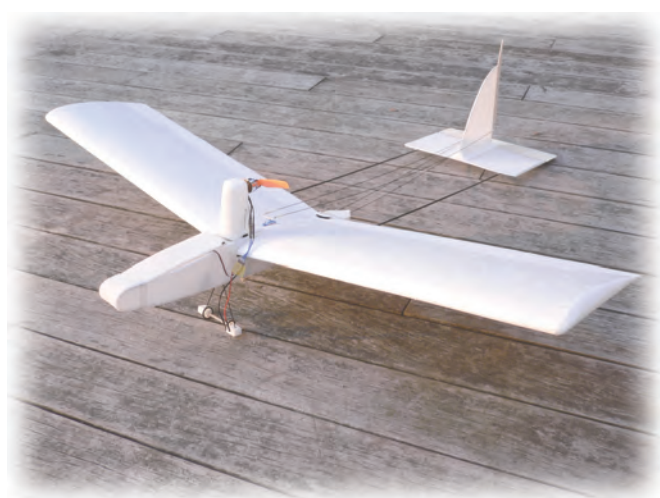
材料工学科 3年 長谷川 紅

弁論大会への参加は今回で2度目になります。昨年は、暗記の部で参加しました。与えられた課題文章を暗記し、人前で英語をしゃべることだけで精いっぱいでした。

今回は、スピーチの部に参加しました。自分で文章を作成することからのスタートでした。テーマは自由でしたので何にしようか悩みました。そして、私は戦争や平和についての考えを大勢の人に伝えよう、と思いました。英語は全世界で広く使われている言語であり、その言語で自分の平和への思いを伝えることはとても重要なことだと思ったのです。「平和な世界を望みます!」ということは誰にでも言えます。私には、平和について今までのたくさんの経験を通して考えていたことがあります。それを私の言葉で、定められた7分の中にうまくまとめられるか、文章作りはとても大変でした。多くの方にアドバイスをいただき、なんとか自分の文章を作り上げることができました。ところが、ただ文章をつくりあげて発表すればいいというものではありませんでした。文章は暗記して発表するので、ただの暗唱になってしまいます。練習では発音などはもちろんですが、いかに多くの人の心に自分の思いを届けるかを考えなければなりません。自分の思いはあるのに、その思いを完全に自分のものにし、伝えるのは難しいことでした。

さて、本番当日。練習で注意された発音などを思い出しながら、結果よりも会場にいる人に伝える!その気持ちをしっかりと持って本番に臨みました。練習通りにはいかなかった部分もありましたが、2位という結果を残すことができました。これは伝えたい、という気持ちが伝わった結果かなと、とても嬉しく思います。

大勢の前で、平和についての考えを伝えられた、それだけで私の平和に対しての考え方をもっと深められたと思います。また、全国大会でも胸を張って伝えていきたいと思います。



パテントコンテスト入賞から 特許取得に至って

機械電気システム工学専攻
2年 山田 直樹

私が専攻科1年前期の創造工学実験で発明した「根菜おろし器」は、昨年11月に開催された特許庁主催のパテントコンテストで見事入賞し、特許出願に必要な費用を国が負担してくれる特許出願支援対象となりました。その後、今年3月に特許庁から派遣された弁理士と共に特許出願を行い、10月に晴れて正式に特許取得に至りました。

当初私は、コンテストで入賞したということで、特許取得は容易だろうと考えていましたが、実際はそうに甘くなく、何度も発明に対する拒絶通知が届き、弁理士と共に補正を繰り返す必要があり、特許取得に至るまで非常に苦労しました。しかし、今回私はこの体験で多くのことを学び、成長することができました。さらに、この特許取得が新聞記事になるなど、貴重な経験をすることができました。

私は、学生個人が特許を持つことは非常に名誉なことであり、就職・進学等において大きな強みとなると思います。また、このような経験は減多にできないことだと思うので、後輩にも頑張ってもらいたいと思います。



第48回化学関連支部合同ポスター賞受賞 有機化学部門

生物応用化学科准教授 石井 努

去る、7月9日(土)に北九州国際会議場にて開催された、第48回化学関連支部合同九州大会において、本校物質工学専攻2年生の池田圭君が、有機化学セッションで「ポスター賞」を受賞しました。本セッションには103件の参加がありましたが、大半は九州地区の大学院生で、本校を含め高専からの発表は数件でした。その中で、池田君は優れた成果を明快なポスターを用いて発表し、質疑に対して的確に応答することで、見事ポスター賞を受賞しました。他の受賞者4名は、九州大学大学院博士課程の院生に代表されるように、池田君よりも実績と経験を有した者ばかりでした。その中で受賞を成し得たことは、池田君の日頃の努力の賜物であると同時に、本校専攻科における地道な教育・研究指導の成果と、評価できるのではないのでしょうか？本受賞が良い刺激となり、専攻科の後輩学生諸氏が活躍することを期待します。

本受賞に対し池田君は、「若手研究者セミナー」において受賞講演も行い、参加された学会関係の先生方から高い評価を受けています。最後に、今後の池田君の若手化学者としての更なる成長を期待します。



電気化学部門

材料工学科准教授 濱上 寿一

材料工学科濱上研究室に所属する鬼丸翔平(本科4年在籍)が第48回化学関連支部合同九州大会(2011年7月9日、北九州国際会議場)の【電気化学】分野におけるポスター発表にて優秀研究発表賞を受賞した。本学会の発表件数は684件であり参加者数は1,000人を超える規模のものであった。そのうち電気化学分野での発表件数は128件であり、受賞件数は16件であった。受賞率は12.5%と狭き門であった。受賞者の多くは国立大学大学院、とくに九州大学大学院に所属する学生であった。鬼丸は本科の4年(大学学部1年次相当)に在籍することから、間違いなく最年少での受賞者であった。さらに、本研究分野における受賞も本校初の快挙でもある。このことは、本校学生の研究能力の高さを対外的に強烈にアピールするものであると考える。

第48回（平成23年度）九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会成績・
（夏季：7月8～10日、7月15～18日）

陸上競技	学校対抗	久留米高専	準優勝	
	100m	3S 藤吉 輝明	1位	全国大会出場
		2M 山内 慧祐	6位	
	200m	3S 藤吉 輝明	1位	全国大会出場
		2M 山内 慧祐	3位	全国大会出場
		4C 川端 将真	6位	
	400m	3S 石橋 聡	2位	全国大会出場
	800m	3E 日下部 寛	4位	
		2E 駒田 大典	8位	
	110mH	3E 小坪 俊勝	5位	
		1E 足立 智一	6位	
		3A 東 晃也	8位	
	走幅跳	3A 松尾 卓実	6位	
		1S 廣瀬 竜馬	8位	
	走高跳	3E 中村 亮太	5位	
		1S 平野 圭人	7位	
	三段跳	3A 松尾 卓実	3位	全国大会出場
	400mリレー	3E小坪、3S藤吉、4C川端、2M山内	1位	全国大会出場
	1600mリレー	3S石橋、3E日下部、3E中村、3S藤吉	2位	全国大会出場
	女子800m	1S 中村 優花	2位	全国大会出場
		1S 深川 千紜	8位	
バドミントン	女子ダブルス	1C本川彩奈・1C神之菌那帆	3位	
水泳	男子自由形100m	4S 嶋田 健汰	3位	全国大会出場
	男子自由形200m	4A 隈 光祐	2位	全国大会出場
	男子自由形800m	2M 中田 匡	8位	
	男子背泳ぎ200m	3S 中嶋 直哉	6位	
	男子平泳ぎ200m	3M 山田 大介	7位	
	男子バタフライ100m	2S 西見 武	6位	
	男子バタフライ200m	2S 西見 武	2位	全国大会出場
	男子個人メドレー200m	4S 田崎 大剛	8位	
	男子リレー400m	4S嶋田、4A隈、3S中嶋、2S西見	5位	
	男子メドレーリレー400m	3S中嶋、3M山田、2S西見、4S田崎	6位	
	女子自由形100m	3C 碓井 美咲	2位	全国大会出場
	女子背泳ぎ50m	3C 碓井 美咲	3位	
	女子背泳ぎ50m	5E 中島 早紀	5位	
	女子平泳ぎ100m	2S 川上 留実	5位	
バスケットボール	男子		準優勝	全国大会出場
	女子		準優勝	
剣道	男子団体		3位	
柔道	男子個人(90kg超級)	3A 上葉 健人	準優勝	全国大会出場
	女子個人(63kg以下級)	2A 石橋 典子	優勝※	全国大会出場

※不戦勝

第48回（平成23年度）九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会成績
（冬季：11月12～15日）

ラグビーフットボール		準優勝	全国大会出場
------------	--	-----	--------

平成24年度 大学編入学合格状況

大 学 名	合 格 者 数					
	機 械	電 気	制 御	生 化	材 料	計
豊橋技術科学大学(工学:特別推薦)				1		1
豊橋技術科学大学(工学:推薦)	1	1			1	3
豊橋技術科学大学(工学)		2		3		5
長岡技術科学大学(工学:推薦)				1		1
長岡技術科学大学(工学)				1		1
九州大学(工学)	3	1	1	2		7
九州大学(経済:推)			1			1
九州大学(芸術工学)		1				1
九州工業大学(工学:推)	3				2	5
九州工業大学(情報工学:推)	1		2			3
佐賀大学(理工学)			1		1	2
熊本大学(工学)		1	1			2
山口大学(工学)		1				1
徳島大学(工学)	1					1
広島大学(工学)				1		1
大阪大学(工学)	1					1
神戸大学(理工学)			1			1
名古屋工業大学(工学)		1				1
東京大学(工学)			1			1
東京工業大学(生命理工学)				1		1
東京農工大学(工学:推)	1					1
首都大東京(都市環境学部理工学系)	1					1
横浜国立大学(工学)		1				1
筑波大学(理工学)		1				1
筑波大学(情報学)			1			1
富山大学(工学:推)	1					1
岩手大学(工学)					1	1
福井大学(工学)			1			1
室蘭工業大学(工学)			1			1
奈良女子大学(理工学)			1			1
合 計	13	10	12	10	5	50
重複者を除く実数	10	8	11	8	5	42

平成24年度 久留米高専専攻科合格状況

学 校 名	合 格 者 数					
	機 械	電 気	制 御	生 化	材 料	計
久留米高専専攻科(推)	3	2	4	3	2	14
久留米高専専攻科(学)前期	4	6	7	2	2	21
久留米高専専攻科(学)後期	0	1	2	1	2	6
合 計	7	9	13	6	6	41

平成24年度 専攻科 大学院合格状況

大 学 院 名	合 格 者 数		
	機械・電気 システム 工学専攻	物 質 工 学 専 攻	計
九州大学大学院(総理工:推)	2		2
九州大学大学院(総理工)	1	3	4
九州大学大学院(システム情報科学)	1		1
九州工業大学大学院(機械知能工学:推)	1		1
九州工業大学大学院(情報工学)	1		1
九州工業大学大学院(生命体工学)		1	1
東京大学大学院(工学)	1		1
東京工業大学大学院(総合理工学)		2	2
筑波大学大学院(システム情報工学)	1		1
奈良先端科学技術大学院大学 (物質創成科学研究科)		1	1
電気通信大学大学院(情報システム学研究科)	1		1
合 計	9	7	16

平成23年度(平成24年3月) 卒業予定者の就職内定状況

平成23年11月11日現在

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
西部技研 久光製薬 三井造船 極東開発 セイコーエプソン 三菱重工滋賀 東芝 IHマリンユナイテッド ヤンマー農機 三菱重工 長崎造船所 佐賀電算センター ホンダ技研 コマツ実験部 日杵 東邦チタニウム 京セラ 川内工場 河上船舶機械 第一精工 中部電力 西日本プラント工業 関西電力 三菱重工名古屋 アドバンテスト ジェイベック 戸畑共同火力 JR東海 オムロンP.Eng JFEスチール西日本	京セラ川内工場 中部電力 九州電力 京セラ分工場 関西電力 富士通 NECフィールドイン ヤクルト本社佐賀工場 東芝メカニカルシステムズ KCCSモバイルエンジニアリング キリンビール福岡工場 キューキ リコーテックシステムズ九州事業本部 ブリヂストンプラントエンジニアリング 中国電力 福岡空港ビルディング JNC水俣製造所 パナソニックエレクトロニクスデバイス	三菱化学エンジニアリング 中部電力 NTTデータ 森永乳業・神戸工場 ムラテックCCS BMシステムズ LNG北九州 JR東海 大阪ガス リコーテック システムズ NOK 三松 東芝エレベータ 中国電力 パナソニックシステムソリューションズ	ニプロ 武田製薬工業 京セラ川内工場 三井分析センター 塩野義製薬 JNC 三洋化成 九州化学工業 三洋化成 アグリス 明治 ムーンスター 第一三共プロファーマ 協和発酵バイオ 東燃化学	東洋新薬 京セラ MH高砂 日本織力選航 ディスコ 鳥栖シーガル JR西日本 ワキタハイテク コマツキャステックス ネツレン 日本精工九州 富士ダイス マツダ DIC 田中貴金属 大石青盛堂 エヌ・エヌ・ティ 東プレ九州 川重岐阜 タカハタプレシジョン 東プレ 東研サイモ JR西日本 宇部興産 東伸熱工 新日鉄 国立印刷局 日立化成 フルヤ金属 アスカコーポレーション

平成23年度(平成24年3月) 専攻科卒業予定者の就職内定状況

平成23年11月11日現在

機械・電気システム工学専攻	求職者 19 男 19 内定者 19 男 19	神戸製鋼 長崎県警 カシワジ コカコーラウエストプロダクツ 富 士 通 T O T O シャープ インクスエンジニアリング DIC 日立プラントテクノロジー 高田工業所 富士古河E&C 旭化成 モリタ製作所 三菱重工長崎 ネクスィス キューキ
物質工学専攻	求職者 10 男 7・女 3 内定者 10 男 7・女 3	協和発酵バイオ 沢 井 製 薬 住 友 精 化 明 治 旭 化 成 資 生 堂 西 部 技 研 東 燃 化 学 ネクスィス